

令和7年度
山形県立保健医療大学 保健医療学部
総合型選抜（山形県内定着枠）

小 論 文

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題は4ページ、解答用紙は2枚です。
試験開始の合図とともに、直ちに問題冊子、解答用紙を点検し、印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等があったら、手を挙げて監督者に知らせてください。
ただし、問題の内容や解答の仕方についての質問は受け付けません。
3. 監督者の指示に従って、解答用紙のすべてに受験番号・氏名を記入してください。
4. 解答は、解答用紙の解答欄に記入してください。
5. 解答用紙の※欄に記入してはいけません。
6. 解答用紙のホッチキス止めを切り離してはいけません。
7. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
8. 試験中は監督者に許可なく自席を離れたり、私語や談笑をしてはいけません。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

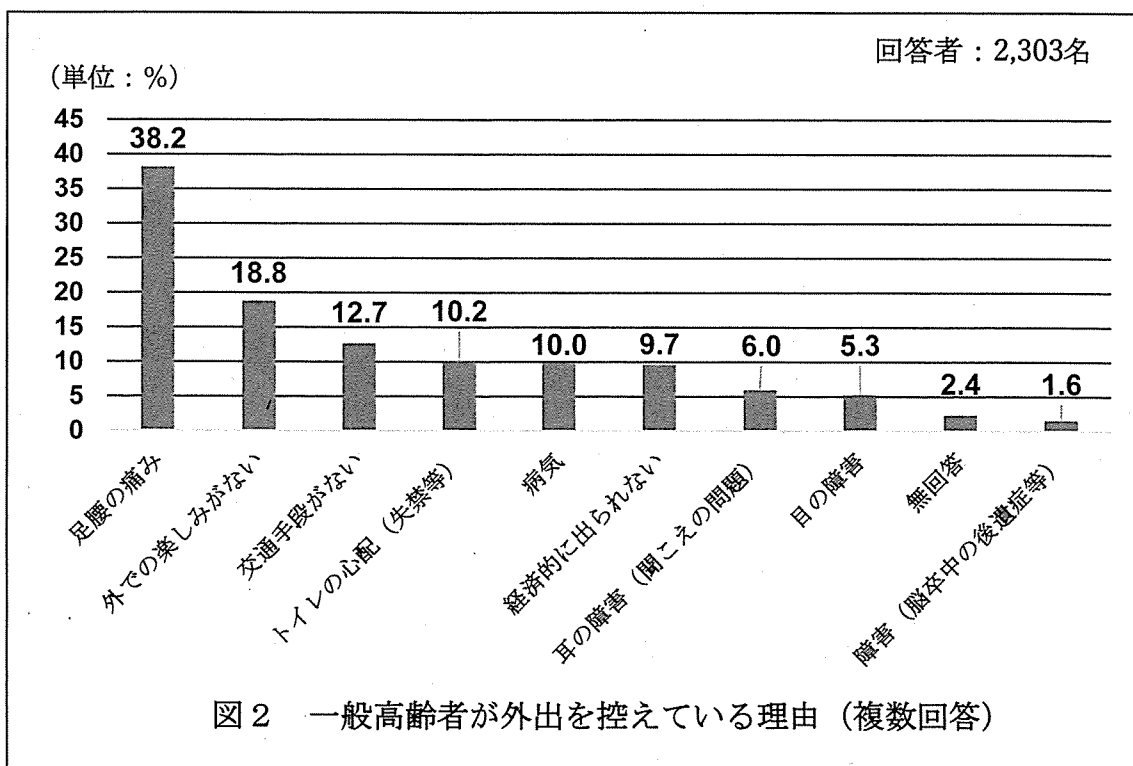
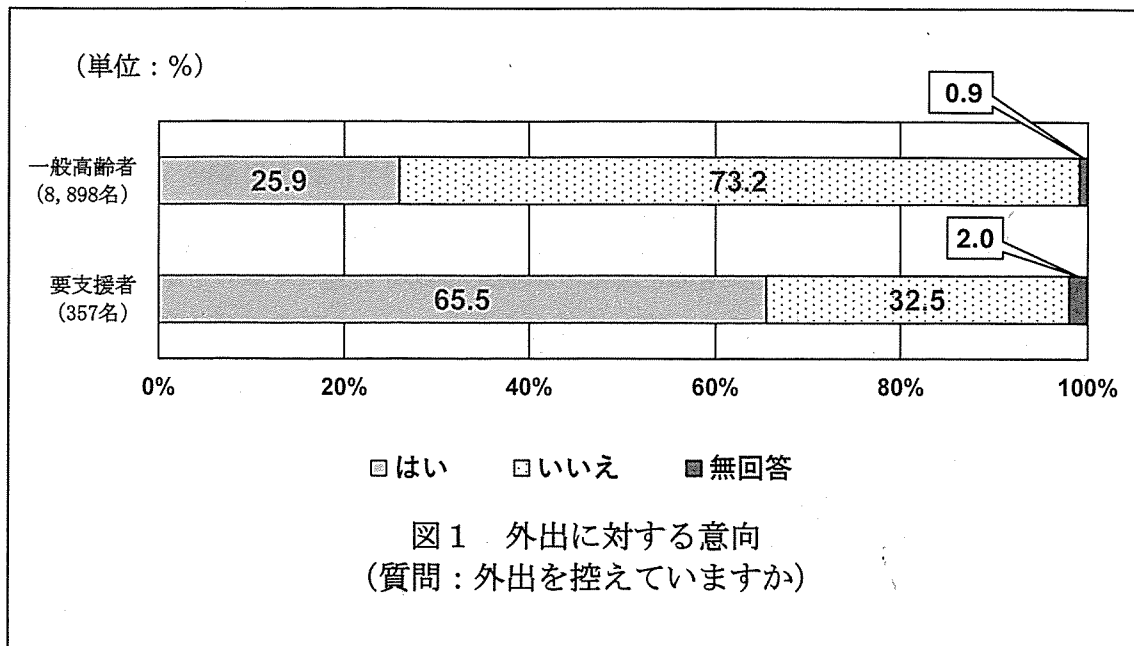
図1および図2は、山形市の「高齢者実態調査結果報告書」から、高齢者の外出に関する調査結果の一部を示したものです。

図1は、山形市に居住する一般高齢者※(8,898名)・要支援者※(357名)に対する「外出を控えているか」という質問への回答の結果であり、図2は一般高齢者のうち「外出を控えているか」という質問に対して「はい」と回答した2,303名(25.9%)を対象に、外出を控えている理由について尋ねた結果を示しています。

図1、図2が示している一般高齢者が外出を控えている理由について述べなさい。また、一般高齢者の外出控えを緩和するための公共機関や公共性のある場でできることについて、県や市という自治体による取り組みと地域社会や住民のコミュニティによる取り組みという2つの視点で、600字以内で述べなさい。

※一般高齢者・要支援者について

要支援者とは、介護保険制度に基づき、要支援の認定を受けた人を指します。要支援の状態とは、日常生活上の基本的動作については、ほぼ自分で行うことが可能であるものの、家事や日常生活に何らかの支援を要する状態を言います。また、一般高齢者とは、要支援の状態ではなく、介護予防や生活支援サービスの対象とならない65歳以上の高齢者を指します。



出典：山形市, 高齢者実態調査結果報告書 令和5年7月,
https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/013/625/koureiiitukatu3.pdf (一部改変)

以下は、共生社会の実現を目指して、コピーライターの澤田智洋氏が提唱する「ゆるスポーツ」についての文章です。この文章を参考に、問1、問2に答えなさい。

負けても楽しくて、みんなと共有したくなり、笑えるスポーツ。スポーツが得意な人もそうでない人も同じ目線で「ゆるく」楽しめるようなもの……。既存スポーツのストイックなところを極力なくして、できるだけ間口を広くすることができたら……。

そうだ！「ゆるスポーツ」という名前なんてどうだろう？

(中略)

ゆるスポーツは企業だけでなく、地方自治体とも多くコラボしています。富山県氷見市とつくった「ハンギョボール」は、そんなゆるスポーツのひとつです。

寒ブリの名産地として知られる氷見市からのお題は、「ハンドボールを使って地域をPRしたい」。氷見市は毎年「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」を開催するほど、ハンドボールが盛んな地域だそう。

それなら、ゆるスポーツの出番です。

まずは、世界ゆるスポーツ協会の萩原さんがファシリテーターとなって氷見市のみなさんを集めてワークショップを行ないました。ハンドボールをどのようにアレンジしたら氷見市の魅力を伝えられるか？その中で話題に上がったのが氷見市の名産であるブリ。

では、ブリとハンドボールを掛け合わせると、どんなスポーツができるか？どうやったらガチでハードなハンドボールをブリの力でゆるくできるか？こうして誕生したのが「ハンギョボール」です。

基本的なルールはハンドボールに倣いつつ、プレーヤーはブリのぬいぐるみを小脇に抱えます。そして、ゴールを決めるとそのブリが「出世（巨大化）」して行きます。

つまり、ゴールを決めるたびに、コズクラ、フクラギ、ガンド、ブリと小脇のブリが大きくなって(いずれも氷見弁でのブリの呼び方)プレーの難易度が上がっていくんですが、そのルールの中で、「あ、出世魚ってこんな名前なんだ」みたいに、ちょっと学べる仕掛けになっています。そして、試合終了時点でより多くの出世魚を抱えていたチームが勝利する。

素晴らしいのは、ゆるスポーツをつくったのは市民のみなさん自身……つまり当事者だということ。今まで広告会社や外部のアドバイザーに任せていた、「新しいものをつくる」という行為を自分たち自身でやった。

出典：澤田智洋，マイノリティデザイン ―「弱さ」を生かせる社会をつくろう，ライツ社，2021，p172, 211-213. (一部改変)

山形県内の市町村または地域を1か所取り上げ、その地域の魅力（観光地・名産品・気候風土・郷土芸能・歴史など）をアピールでき、なおかつ、共生社会の実現に向けて、年齢や性別、スポーツ経験、病気や障がいの有無などにかかわらず、誰もが楽しく参加できるアイデアを盛り込んだ「ゆるスポーツ」を、以下の問1、問2を用いて記述してください。

ただし、ゆるスポーツを行うための人員、用具、場所、費用、ルールについての厳密さは問わないこととします。

問1

あなたが提案する「ゆるスポーツ」にタイトルをつけ、そのゆるスポーツがアピールする市町村または地域の魅力と、そのアピール要素を取り入れた「ゆるスポーツ」の説明を、300字以内で記述しなさい。

問2

問1で提案した「ゆるスポーツ」では、共生社会の実現に向けて、どのような方たちの参加を想定して、どのような工夫を行いますか。300字以内で記述しなさい。